

令和7年度 研究の概要

B1グループ

① 港明中 伊藤 晴弥 なごやか中 飯田 和志 当知中 井上 正徳
沢上中 上坂 健 港南中 二宮 巨大 神沢中 宮松 卓矢 黄金中 蜂須賀 優佑

よりよく問題を解決することができる生徒の育成

1 研究のねらい

日頃から問題に対して一生懸命取り組み、解決しようとしている。しかし、様々な解決方法がある中で、よりよい解決方法が何かを考えられている生徒は少ない。問題を解決できたことに満足してしまって、そこで思考を止めてしまっていることが原因と考えられる。

中学学習指導要領解説数学編(2017)では、「問題解決の過程を振り返って、評価・改善しようとする態度を育成するためには、協働的な活動を通して、生徒同士の多様な考えを認め合うことも重要である。多様な考えを相互に出し合い認め合うことは、よりよい問題解決を実現するだけでなく、次の機会に向けた新たな発想を引き出すことにつながる。」としている。

そこで、複数の方法が考えられる問題を解決し、その解決方法の中でよりよく解決する方法はどれかを考えさせる。そして、よりよい解決方法について組織的に考えさせる中で、その解決方法の有用性と実用性を実感して、普段からよりよい解決方法は何か考えるようになってほしいと考えた。

この研究における「よりよく問題を解決することができる生徒」とは、「より正確に」「より速く」を意識して解決方法を共有・比較し、問題を解決することができる生徒とする。

2 研究の内容

本研究では、次の二つの手立てを講じ、実践を進めていく。

【手立て①】 複数の方法で解決することができる問題の提示

解決方法が複数存在するような問題を提示し、それを複数の方法で解くように指示する。

【手立て②】 「間違えるリスク」「解く速さ」の段階別評価

ロイロノート・スクールを用いて、他の生徒の解決方法を共有する。その後、それらの方法を「間違えるリスク」「解く速さ」の視点から比較し、5段階で評価する。そして、どの解決方法が自分にとって、よりよい解決方法なのかを考えさせる。